

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	マザアスホームだんらん柏
(ユニット名)	1階、2階
所在地 (県・市町村名)	千葉県柏市酒井根21-6
記入者名 (管理者)	篠塚千津子
記入日	平成 21年 1月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>住み慣れた地域で住み続ける為に、「地域との交流を図り、気兼ねなく暮らせる第二の我が家」の理念の下、安心して穏やかな生活を送るために、自宅での生活に基づいた継続できる事がらを模索しながら、その人らしく暮らし続けることが出来るよう支えている。地域の一人として地域行事にも参加している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は必要に応じて理念を確認している。利用者の身体・精神状況の変化の対応の統一や、本人、家族等の思いを共有することで、理念の実践に日々取り組んでいる。理念を事務所に掲示</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>地域のボランティアを積極的に受け入れる事で、施設の理解につなげ、気兼ねなく来館できるよう取り組んでいる。家族等の来館時には、明るい挨拶とお茶でもてなし、気持ちよく利用者と過ごしていただけるよう取り組んでいる</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩途中の挨拶は、積極的に行なうよう取り組んでいる</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会加入、自治会の文化祭に作品を出品。小学校・幼稚園の運動会に参加することで、地域との交流を図れるよう努めている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中学校から、事業所見学で福祉授業の要請依頼を受け協力。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成16年6月にオープン、4度目の外部評価を受け、その都度指摘箇所を改善を行なっている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	20年度は3回の運営推進会議を開催。ご入居者を支えるチームメンバーとしての報告、話し合いを行い、サービス向上にいかしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	柏市は市役所の協力のもと、グループホーム連絡会を立ち上げ、情報交換のための交流会や、講演会、研修会を行なっている。職員にはそれらの企画に参加できるよう勤務などの配慮を行い、ご入居者のサービスの質の向上に反映されるよう取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	高齢者権利擁護専門課程修了、又、事業所独自の権利擁護研修会に参加するよう促し、勉強の機会を設けている。必要な人には活用できるよう支援している。現在、一人成年後見制度利用。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	柏市の高齢者虐待防止の研修会や、事業所独自の研修会に参加し学ぶ機会を設けている。常に処遇、介護で虐待を受けることがないように、又、見過ごすことがないように、注意を喚起している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時に疑問点、不安を尋ね、必要に応じて施設で昼食を共にして不安の解消を図っている。契約時には再度疑問等を尋ね、理解・納得が得られるよう図っている。利用者の身体状況等により、解約に至る時は、主治医からの説明と、家族、主治医を交えて十分に話し合いを持ち、理解・納得を得られよう図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、介護相談員と地域のボランティアを受け入れ、利用者が外部者に意見等を表せる機会を設けている。又、管理者、職員も、利用者が意見、不満、苦情を伝えることが出来るよう、否定する事なく話を聞くことを実行している。利用者の出された意見により、献立やイベントを企画、外出の機会を設けている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月10日「だんらん通信」を発送。共通の次月のイベント予定や各利用者の個々の身体状況や暮らしぶりを報告している。又、健康状態等の変化は、必要に応じて随時家族等に報告、相談を行なっている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談ボックスを玄関に設置。又、年3回開催した運営推進会議において家族の意見を聞き、運営に反映させている。毎年第三者評価を受け、そこで出された家族の意見を受け止め、運営に反映させている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて意見を聞く機会を設けている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時の応援体制を随時確認。また、必要に応じて職員の確保を本部に依頼		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職希望は2ヶ月前に申し出ることと、新職員がなれるまで、ダブル勤務とし利用者のダメージの軽減を図っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、サービス計画作成担当者は、権利擁護研修専門課程終了。外部研修は受講希望者を募り、受講できるよう勤務体制の配慮を行なう。又、毎月事業所独自の研修を行い、全職員の参加を促している。事業所独自の中堅職員の研修を行い、段階的にトレーニングを行っている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互に訪問、交流をする機会を設けた。柏市グループホーム協会の月1回の会合において、勉強会や他の活動を企画。職員に参加を促している。勉強会等で得た事柄は、施設に持ち帰り検討し、ご入居者のサービスの質の向上に反映されるよう取り組んでいる	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所内の人間関係等の悩み相談窓口「ダイヤル・サービス」を設置。専門家によるカウンセリングが受けられる。毎月の勤務表作成において、連休がとれるよう配慮している。職員とのコミュニケーションを多く持つことで、ストレスを早めに察知し、出来る限り軽減できるよう努めている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職員は事業所独自のチャレンジシートに、年2回、自身の目標課題を記入。目標に向けた努力と成果を、上司と共にふり返り、達成度を確認。各自が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。内部・外部の研修を掲示し、各自が研修に参加できるよう、勤務上配慮を行なっている年に数回の食事会などを設け、コミュニケーションを図る	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に本人の抱えている不安や、困っている事、希望等を本人自身から聴き、本人の思いを受け止める努力をしている。入居に至るまでに数回面談を行う事もあり、必要に応じて入居前に施設で食事を共にすることもある。それらを通して不安の軽減や、信頼関係が築けるよう努力している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時に家族等の心配事、希望をよく聴く機会を作り、何度でも納得されるまで話を聴き、受け止める努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり話を聴くことで、本人と家族が今、必要としている支援を見極め、対応が出来るよう努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と共に施設で食事をしたり、職員や他の入居者と交わる機会を作る等、家族と十分に話し合いながら、雰囲気馴染めるよう工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活のなかで、本人の出来る事を引き出し、本人に達成する喜びと満足感を味わってもらいながら、職員も同じ思いを共有している。入居者の思いに寄り添えるよう、互いに支えあえる関係を築いている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	管理者は常に家族等とのコミュニケーションに心がけ、報告、相談をしながら一緒に本人を支える関係を築いている。年3回の家族会を企画。家族等の協働により、入居者、職員と共に食事作りと会食を行うことで、それぞれが支えあう関係を認識し、よりよい関係を築いている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族等により、本人の生活歴をアセスメントシートに記入してもらうことで、本人と家族等の関係の理解につなげている。常に家族等が望んでいる本人の姿と、本人の思い聴き、家族間の良い関係が築かれるよう支援している。イベント等に家族等の参加を呼びかけ、本人と家族が同じ時間を共有する事で、よりよい関係に向けた支援をしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅での生活が継続できるよう、馴染みの物や写真等を居室に置き、安心して暮らせるよう支援している。散歩や買い物等で馴染みの場所に行く機会を作っている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然な形で入居者同士が関われるよう、席の配置を考慮している。難聴の方の隣には職員が座り、聞こえないことで孤立することがないように、又、入居者同士が関わりあえるよう努めている。その中で入居者同士が支え合えるよう雰囲気作りに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所内の移動などで、継続的な係わりが必要な利用者や家族に、退所後も係わりを大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をしっかり聴き、受け止めることで、思いや希望を把握出来るよう努めている。自身の思いを表現できない方は、本人が望んでいるであろうと思われる事を、家族等と職員と共に検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、生活環境、サービス利用状況の把握が出来るよう、入居までに家族等にアセスメントシートの記入をお願いしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日毎のバイタルチェックや介護サービス経過記録記入と申し送りを通して、一人一人の状況を把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なモニタリングで振り返りを行い、そこで抽出された課題を、本人、家族等、必要な関係者とカンファレンスを行っている。介護計画を作成するにあたり、それぞれの意見やアイデアを反映したサービス計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なサービス計画の見直しを行うと共に、状態の変化により、介護計画の見直しの必要が生じた時は、本人、家族等、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たなサービス計画を作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護サービス経過記録に日々の様子やケアの実践や気づき等を記録し、毎日の申し送りや伝達事項記載により情報を共有し、サービス計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本体事業所のマザアス南柏の協力体制が出来ている。必要に応じて、看護師や理学療法士等の助言や支援を受けている。マザアス南柏のイベント参加や外出時の支援を受け、入居者、家族等の要望に応じられるようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の必要に応じて、地域のボランティアの協力を得ている。地域の文化祭や幼稚園・小学校の運動会等の行事に参加して、地域資源と協力しながら支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてリハビリ、福祉用具の利用を支援している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	年3回、推進運営会議を地域包括センターと協働して開催		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、家族の希望を大切に考え選んでいただいている。入居者が適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医と事業者の関係を築きながら、受診支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医との協力提携しており、月2回往診していただいている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医や看護師、薬剤師との協力体制が出来ている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者、本人、家族と十分な話し合いと情報交換に努め、連携を密に行い、退院に備えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化により、主治医や家族、職員と密に話し合いを持ち、本体事業所のマザアス南柏と連携を持ちながら、全員が方針を共有できるような体制を整えている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族には、かかりつけ医と相談しながらグループホームでの医療体制の限界を説明し、家族の希望を聞いている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	主治医の意見書や情報提供書の提出と話し合いにより、十分情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を尊重した対応を行い、個人情報の取り扱いは、慎重に十分注意を払うよう指導している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者との会話の中で、本人の思いを表せるように支援をしている。いろいろな場面で自己決定ができるよう、納得しながら暮らせるよう支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を聞きながら、一人一人のペースに合わせた支援をしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意見を尊重し、その方らしい装いが出来るよう支援している。本人の望む利用・美容院に案内している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は作る楽しさ、食べる楽しみを味わってもらうために、その方の力を活かしたメニューや作り方を工夫している。自然な雰囲気調理・片付けに参加できるよう支援している	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の嗜好や身体状況に合わせて支援している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを掴み、声かけや誘導を行なうことで本人の力を活かし、気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人のタイミングに合わせ、なるべく希望にあわせた支援をしている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、その時の状況に応じて、気持ちよく就寝で出来るよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かし、楽しみを見出せすよう支援している。出来ることは継続して活かせるように支援している。華道、書道、絵などに関われる機会を継続する		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、家族と相談の上、現金の所持と使えるよう支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やスーパーへの買い物等、出来る限り外出できるよう支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に外出する機会を支援したり、年2回コンサート等の参加の機会をつくり、支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話や手紙の支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常にもてなしの心で訪問者を迎え、気持ちよく過ごせるように環境を整えている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止している。職員も身体拘束禁止を理解している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不法侵入による危険防止のため、本人、家族の希望に沿い、門の鍵はかけている。本人にとって拘束とならないよう心がけている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、入居者の様子を把握している。居室で過ごされている時は、1時間に1回以上、様子を把握するため、訪室。安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員の見守りの中で使用してもらう等、一人一人の状態に応じて支援をしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や研修を受け、事故防止に取り組んでいる。一人一人の状態を常に把握し、その方の状態に応じた取り組みをしている。事故が起きた時は、事故報告書を作成し、再発を防ぐ取り組みをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は事故発生時の初期対応ができるように訓練している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練を実施している。年2回 実施する		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方らしく生活を送る上で、起こりうるリスクについても家族と十分な話し合いを持っている。事故が起きた場合は、その都度連絡を入れる		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々体調の変化に注意して観察し、気付いた際は職員同士の情報共有を速やかに行い、状態により医師や看護師と連携して対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、現在服薬中の薬を把握し、副作用も理解したうえで支援している。服薬後は症状の変化を確認している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎食の食事量のチェックと排便確認を行なっている。便秘解消の為、水分を甘くする等飲んでもらえる工夫を行っている。毎日の体操や散歩等、身体を動かす働きかけに取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、その方にあった口腔ケアを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量が確保できるよう、一人一人の状態に合わせて、大きさや硬さや食べやすさ等を検討し、その方の力に応じた支援をしている。1500cc/日を目安にする		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し職員に徹底している。来館者にも、手洗い、うがいの協力をお願いしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理点検表にて衛生管理をしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植え、ベンチを数箇所配置して、ベンチで歓談できるよう工夫している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花やカレンダーを飾り、本や人形を置いて、生活観を取り入れている。常に心地よく過ごせるよう心掛けている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで入居者同士が思い思いに過ごせるよう、配慮している。ベランダや庭でも歓談できるように、ベンチを置くなど工夫している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を部屋に置き、居心地よく過ごせるよう工夫している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、換気を行い常に室温の調整を心掛けている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全に配慮している。自立した生活が送れるように環境整備を行い、一人一人に合った工夫をしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにはプレートをつけ、居室は表札や写真を飾り、混乱を減少している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭で野菜作りや花植えを行い、お茶を楽しんだり、焼き芋を焼いたり、入居者と共に活用している		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族会を開いて、家族と利用者が楽しいひと時を作れるようにしている。医師の協力により、家族とのカンファレンスが出来ている。緊急時の対応として主治医が夜間でも駆けつけてくれる体制が出来ている。